

◆調査概要

～業況判断DIは、3期ぶりの「好転」超～

- 2017年7～9月期の県内企業の業況判断DIは、3.6と3期ぶりに「好転」超となった。内訳項目をみると、生産・販売（売上・受注）DIが「増加」超に転じた。製商品（販売）価格と原材料（仕入）価格はほぼ横ばいで推移し、採算DIのマイナス幅は縮小した。設備投資を増やす動きがみられ、設備投資DIは2014年10～12月期以来の「増加」超となった。人員判断DIでは依然大幅な「不足」超が続いている。
- 業種別に業況判断DIをみると、製造業は木材木製品、窯業土石等を中心に「好転」超に転じた。非製造業は小売業を中心に「悪化」超に転じた（16頁）。
- 経営上の問題点では、依然「求人難」が多く、特にサービス業、建設業、輸送機器、小売業などの回答割合が高かった（21頁）。
- 引き続き2017年10～12月期も、業況判断DIは「好転」超となる見通しである。

項目別DI推移

(数字の前の「△」はマイナスを意味する)

年・月期	業況判断	生産・販売 (売上・受注)	製商品 (販売) 価格	原材料 (仕入) 価格	採 算	設備投資	資金繰り	在庫水準	人員判断	
15・4～6	△ 8.7	△ 7.1	△ 0.2	27.2	△15.4	△ 2.5	△ 4.2	△13.7	△18.0	
7～9	2.1	2.1	△ 2.6	13.0	△ 3.8	△ 3.1	△ 0.4	△12.2	△24.2	
10～12	6.7	6.6	△ 3.0	8.2	△ 1.2	△ 0.9	△ 1.3	△14.7	△27.3	
16・1～3	△ 7.2	△10.6	△ 6.6	△ 0.2	△ 7.2	△ 4.3	△ 3.1	△14.8	△28.7	
4～6	△ 7.5	△10.3	△ 4.6	3.6	△10.7	△ 5.8	0.0	△12.8	△16.1	
7～9	1.6	△ 3.0	△ 2.4	2.0	△ 3.3	△ 3.4	1.5	△10.0	△24.2	
10～12	6.0	6.7	0.0	13.3	△ 0.5	△ 1.6	1.7	△11.1	△30.2	
17・1～3	△ 4.9	△ 5.6	△ 0.2	18.6	△10.2	△ 1.5	1.2	△10.7	△30.2	
4～6	△ 0.6	△ 1.5	1.3	17.7	△ 7.7	△ 4.7	1.3	△13.8	△26.8	
17・7～9	3.6	2.9	0.2	16.0	△ 4.7	4.0	2.1	△14.1	△30.9	
(前 期 比)	(4.2)	(4.4)	(△ 1.1)	(△ 1.7)	(3.0)	(8.7)	(0.8)	(△ 0.3)	(△ 4.1)	
(前回予測比)	(△ 6.6)	(△ 6.9)	(△ 2.0)	(1.8)	(△ 6.2)	(3.8)	(1.2)	(△ 5.9)	(△ 2.9)	
17・10～12見通し	4.9	5.0	0.4	13.5	△ 2.7	0.5	0.5	△ 4.4	△31.4	
(前 期 比)	(1.3)	(2.1)	(0.2)	(△ 2.5)	(2.0)	(△ 3.5)	(△ 1.6)	(9.7)	(△ 0.5)	
D	I	好転－悪化	増加－減少	上昇－低下	上昇－低下	好転－悪化	増加－減少	余裕－窮屈	不足－過剰	過剰－不足

◆調査要領

1. 調査の目的

群馬県内の景気動向と先行きを予測し、県内主要産業の実態を把握する。

2. 調査対象企業

群馬銀行の取引先を中心に1033社

回答社数447社（回答率43.3%）うち製造業206社 非製造業241社

3. 調査方法

記名式で当研究所の指定した項目について、その実績と見通しを記入するよう依頼した。

4. 調査時期

2017年7月下旬～9月上旬

5. 調査対象期間

2017年7～9月期実績、2017年10～12月期見通し（前期比）

◆回答状況

調査回答数

	会社数	構成比 (%)	うち 中小企業	地域別		
				中央部	東 部	その他
製 造 業	206	46.1	200	83	83	40
食 料 品	24	5.4	24	12	6	6
織 維	12	2.7	12	2	8	2
木 材 木 製 品	12	2.7	12	4	3	5
窯 業 土 石	16	3.6	16	8	3	5
電 気 機 器	21	4.7	20	7	8	6
輸 送 機 器	25	5.6	25	6	19	0
金 属 製 品	31	6.9	31	12	17	2
一 般 機 械	13	2.9	12	9	1	3
そ の 他	52	11.6	48	23	18	11
非 製 造 業	241	53.9	221	140	56	45
卸 売 業	58	13.0	54	39	13	6
小 売 業	35	7.8	25	23	7	5
建 設 業	71	15.9	69	34	16	21
サ ー ビ ス 業	77	17.2	73	44	20	13
合 計	447	100.0	421	223	139	85

注1：地域別

中央部…前橋・高崎地域
東 部…桐生・伊勢崎・太田・館林地域
その他…上記以外の地域

注2：中小企業

製造業……資本金3億円以下または
従業員300人以下
卸売業……資本金1億円以下または
従業員100人以下
小売業……資本金5千万円以下または
従業員50人以下
サービス業…資本金5千万円以下または
従業員100人以下

注3：その他の製造業に含まれる業種

パルプ・紙・紙加工品製造業
印刷・同関連業
化学工業
石油製品・石炭製品製造業
プラスチック製品製造業
ゴム製品製造業
その他、他に区分されない製造業

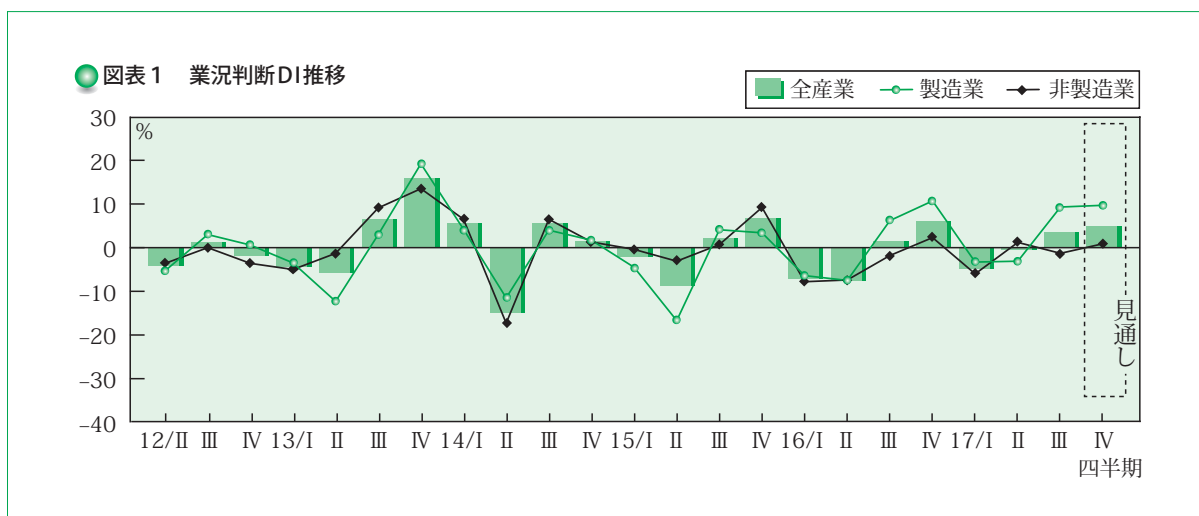
■本文中にあるDIについて

DIは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略。好転した企業の割合から悪化した企業の割合を差し引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

例えば、回答した企業のうち30%の企業で生産が増加し、10%の企業が減少した場合、DI値は「30－10＝20」となる。DI値は、好不況等の浸透度を測るためのもので、量的大きさを測ることを直接の目的としていない。このため、DI値から生産が高水準であるのか、低水準であるのかの判断が困難な面もあるので、従来からの推移をみて増加傾向にあるのか、低下傾向にあるのかを判断する。

1. 自社業況判断

～製造業を中心に3期ぶりの「好転」超、見通しも「好転」超を維持～



	17/II 実績	17/III(7-9月)		17/IV 見通し
		前回予測	実績	
好転	12.3	(16.8)	14.8	14.8
変わらず	74.8	(76.6)	74.0	75.3
悪化	12.9	(6.6)	11.2	9.9
全産業DI	△0.6	(10.2)	3.6	4.9

業種	17/II 実績	17/III(7-9月) 前回予測	17/III(7-9月) 実績	17/IV 見通し
製造業DI	△3.1	(14.2)	9.3	9.7
食料品	4.0	(20.0)	8.3	4.2
繊維	11.1	(△11.1)	△33.3	0.0
木材木製品	△22.2	(33.3)	25.0	25.0
窯業土石	△20.0	(△13.3)	12.5	12.5
電気機器	△10.6	(21.0)	4.7	9.5
輸送機器	△3.8	(15.4)	0.0	△4.0
金属製品	5.9	(20.6)	16.2	12.9
一般機械	5.9	(29.4)	0.0	15.4
その他	△6.9	(6.9)	19.7	13.7
非製造業DI	1.2	(7.3)	△1.3	0.9
卸売業	△1.7	(6.9)	0.0	3.4
小売業	2.6	(13.2)	△17.1	0.0
建設業	△5.5	(△1.4)	4.3	△5.7
サービス	7.7	(12.1)	0.0	5.2

【17年7～9月期】

○全産業

業況判断DIは、3.6と「好転」超に転じた。

○製造業

木材木製品、窯業土石、その他、電気機器が「好転」超に転じ、全体のDIも9.3と3期ぶりに「好転」超となった。

○非製造業

売上減少と採算悪化で小売業が「悪化」超に転じ、全体のDIは△1.3と2期ぶりに「悪化」超となった。

【17年10～12月期（見通し）】

○全産業

業況判断DIは、4.9と「好転」超を維持する。

○製造業

繊維が生産・販売の増加等により、「好転」と「悪化」が均衡する。

○非製造業

小売業が生産・販売の増加等により、「好転」と「悪化」が均衡する。

2. 項目別動向

(1)生産・販売(売上・受注)

～「増加」超に転じ、見通しも「増加」超を維持～

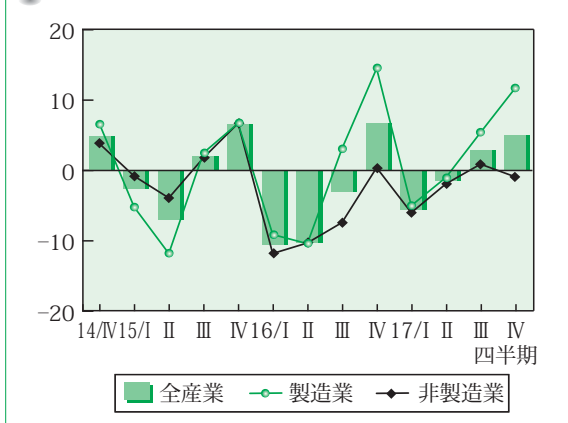
	17/II 実績	17/III(7-9月)		17/IV 見通し
		前回予測	実績	
増加	15.7	(20.5)	16.9	18.1
横ばい	67.1	(68.8)	69.1	68.8
減少	17.2	(10.7)	14.0	13.1
全産業DI	△1.5	(9.8)	2.9	5.0
製造業DI	△1.0	(17.3)	5.4	11.7
食料品	8.0	(28.0)	△4.1	12.5
繊維	44.4	(△11.1)	△25.0	8.3
木材木製品	△22.2	(22.2)	25.0	33.4
窯業土石	△40.0	(△20.0)	6.2	18.8
電気機器	△15.8	(21.0)	4.7	9.5
輸送機器	0.0	(15.4)	0.0	△8.0
金属製品	8.8	(26.5)	3.2	16.1
一般機械	11.8	(35.3)	7.7	15.4
その他	△4.7	(13.9)	16.0	12.0
非製造業DI	△1.9	(4.2)	0.9	△0.9
卸売業	3.3	(3.3)	5.2	3.4
小売業	△10.5	(5.3)	△14.2	2.8
建設業	△12.3	(△9.5)	1.4	△10.2
サービス	6.6	(15.4)	3.9	2.6

(2)製商品(販売)価格

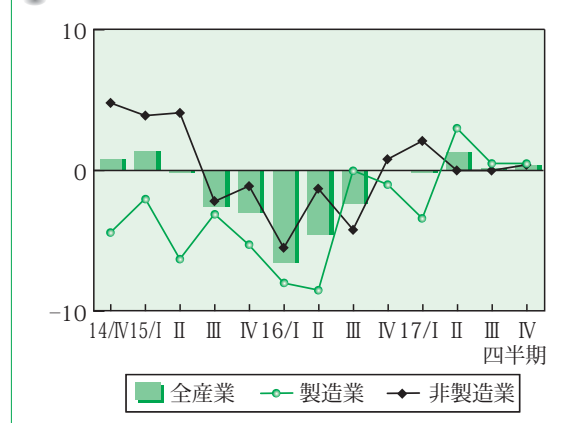
～「横ばい」が9割弱を占める～

	17/II 実績	17/III(7-9月)		17/IV 見通し
		前回予測	実績	
上昇	6.9	(6.4)	5.5	5.0
横ばい	87.5	(89.4)	89.2	90.4
低下	5.6	(4.2)	5.3	4.6
全産業DI	1.3	(2.2)	0.2	0.4
製造業DI	3.0	(3.5)	0.5	0.5
食料品	12.0	(4.0)	0.0	4.3
繊維	△11.1	(△11.1)	△16.7	△25.0
木材木製品	0.0	(11.1)	8.3	8.3
窯業土石	13.3	(20.0)	6.3	0.0
電気機器	△15.8	(0.0)	0.0	△4.8
輸送機器	0.0	(3.9)	△4.0	△4.0
金属製品	5.9	(3.0)	0.0	9.7
一般機械	11.8	(5.9)	0.0	0.0
その他	2.4	(0.0)	4.0	2.0
非製造業DI	0.0	(1.2)	0.0	0.4
卸売業	△3.4	(△1.7)	1.8	6.9
小売業	5.2	(5.3)	5.7	2.8
建設業	△2.7	(△5.6)	△5.9	△2.9
サービス	2.3	(7.0)	1.4	△2.7

● 図表2-1 生産・販売(売上・受注)DI推移(17/IVは見通し)



● 図表2-2 製商品(販売)価格DI推移(17/IVは見通し)



【17年7～9月期】

○製造業

木材木製品や窯業土石等が「増加」超に転じた。一方、衣料品売上低迷を背景に繊維が「減少」超に転じた。

○非製造業

建設業が「増加」超に転じた。
一方、ブランド品販売店や中小の専門店を中心に小売業が「減少」した。

【17年7～9月期】

○製造業

食料品、電気機器、金属製品、一般機械で「上昇」と「低下」が均衡した。

○非製造業

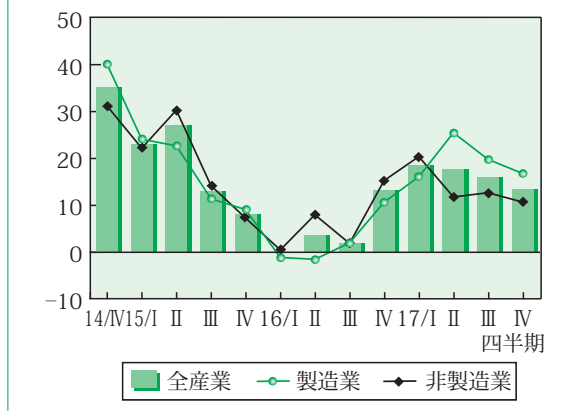
卸売業が「上昇」超に転じた一方、建設業で「低下」が増え、全体では2期連続の均衡となった。

(3)原材料（仕入）価格

～「上昇」超が続く～

	17/II 実績	17/III(7-9月)		17/IV 見通し
		前回予測	実績	
上昇	20.8	(16.2)	18.1	14.2
横ばい	76.1	(81.8)	79.8	85.1
低下	3.1	(2.0)	2.1	0.7
全産業DI	17.7	(14.2)	16.0	13.5
製造業DI	25.5	(19.4)	19.8	16.8
食料品	12.0	(12.0)	8.7	13.1
繊維	22.2	(33.3)	25.0	16.7
木材木製品	0.0	(11.1)	25.0	25.0
窯業土石	13.3	(13.3)	6.3	0.0
電気機器	21.0	(15.8)	14.3	4.8
輸送機器	30.8	(19.2)	16.7	25.0
金属製品	44.1	(23.5)	45.2	32.3
一般機械	52.9	(35.3)	15.4	7.7
その他	16.7	(16.7)	16.0	16.0
非製造業DI	11.8	(10.2)	12.7	10.7
卸売業	6.8	(8.5)	15.5	15.5
小売業	21.1	(18.4)	20.0	11.4
建設業	9.7	(5.5)	7.3	8.7
サービス	12.8	(11.7)	12.3	8.2

● 図表2-3 原材料(仕入)価格DI推移(17/IVは見通し)



【17年7～9月期】

○製造業

木材木製品で「上昇」が増えた。金属製品は鉄や非鉄金属の価格高止まりを背景にDIが45.2と高水準。

○非製造業

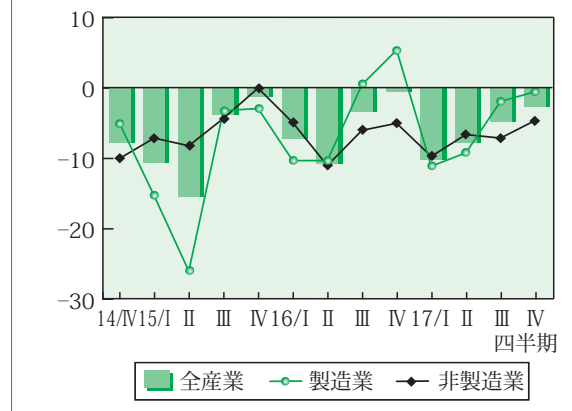
食品、機械器具を中心とした卸売業で「低下」が減り、「上昇」が増えた。

(4)採算

～僅かながら「悪化」が「好転」を上回る～

	17/II 実績	17/III(7-9月)		17/IV 見通し
		前回予測	実績	
好転	8.4	(11.2)	9.7	9.5
変わらず	75.5	(79.1)	75.9	78.3
悪化	16.1	(9.7)	14.4	12.2
全産業DI	△7.7	(1.5)	△4.7	△2.7
製造業DI	△9.2	(5.7)	△1.9	△0.5
食料品	8.0	(8.0)	4.2	△4.2
繊維	0.0	(0.0)	△41.7	△25.0
木材木製品	△12.5	(12.5)	△8.3	8.4
窯業土石	△26.7	(△13.4)	0.0	12.5
電気機器	△21.0	(15.8)	0.0	0.0
輸送機器	△24.0	(12.0)	△8.0	△8.0
金属製品	5.9	(2.9)	△3.2	0.0
一般機械	△17.6	(5.9)	7.7	△7.7
その他	△9.3	(4.6)	5.9	5.9
非製造業DI	△6.6	(△1.6)	△7.1	△4.6
卸売業	△6.9	(△3.5)	△5.2	△3.5
小売業	△10.5	(△2.7)	△17.1	△2.8
建設業	△6.8	(△4.1)	△8.6	△8.5
サービス	△4.4	(2.2)	△2.6	△2.6

● 図表2-4 採算DI推移(17/IVは見通し)



【17年7～9月期】

○製造業

一般機械が「好転」超に転じた。一方、繊維と原材料価格の上昇を受けた金属製品が「悪化」超に転じた。

○非製造業

中小の食品スーパー等を中心に小売業で「悪化」が若干増えた。

(5)設備投資

～2014年10～12月期以来の「増加」超～

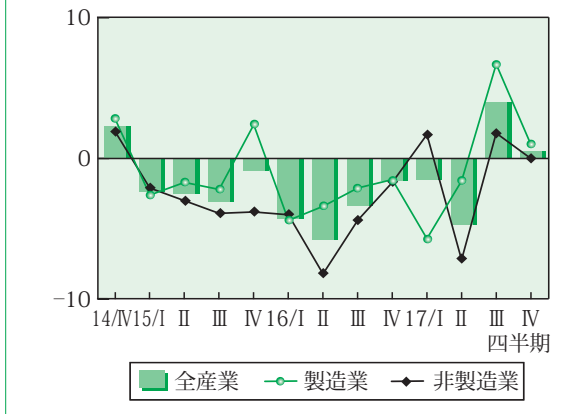
	17/II	17/III(7-9月)		17/IV
	実績	前回予測	実績	見通し
増加	8.9	(9.6)	15.8	11.5
横ばい	77.5	(81.0)	72.4	77.5
減少	13.6	(9.4)	11.8	11.0
全産業DI	△4.7	(0.2)	4.0	0.5
製造業DI	△1.6	(2.1)	6.7	1.0
食料品	△12.0	(△16.0)	12.5	8.4
繊維	14.3	(0.0)	△36.4	△27.3
木材木製品	0.0	(25.0)	10.0	△10.0
窯業土石	△6.7	(△20.0)	12.5	6.2
電気機器	0.0	(11.1)	0.0	△5.0
輸送機器	3.8	(0.0)	4.5	0.0
金属製品	0.0	(3.0)	△3.3	△3.4
一般機械	11.7	(11.7)	△7.7	0.0
その他	△7.5	(10.0)	24.5	10.2
非製造業DI	△7.2	(△1.3)	1.8	0.0
卸売業	△11.8	(△11.8)	△13.7	△7.8
小売業	△11.4	(11.4)	△3.0	△5.9
建設業	△10.0	(△8.6)	3.0	3.0
サービス	0.0	(6.2)	14.1	5.7

(6)資金繰り

～実績、見通しとも「普通」が8割に迫る～

	17/II	17/III(7-9月)		17/IV
	実績	前回予測	実績	見通し
余裕	11.2	(10.1)	11.6	10.5
普通	78.9	(80.7)	78.9	79.5
窮屈	9.9	(9.2)	9.5	10.0
全産業DI	1.3	(0.9)	2.1	0.5
製造業DI	0.0	(0.0)	2.0	1.0
食料品	△4.2	(△4.2)	△8.7	△4.3
繊維	△40.0	(△30.0)	△33.3	△33.3
木材木製品	0.0	(△11.1)	△8.3	△8.3
窯業土石	0.0	(△7.1)	△6.6	6.7
電気機器	31.6	(26.3)	14.3	14.3
輸送機器	△16.0	(△12.0)	16.0	8.0
金属製品	△12.1	(△3.0)	△12.9	△12.9
一般機械	12.5	(12.5)	15.4	7.7
その他	11.6	(6.9)	13.7	9.8
非製造業DI	2.4	(1.6)	2.1	0.0
卸売業	△1.7	(1.7)	△1.8	△3.5
小売業	10.5	(10.5)	8.5	8.5
建設業	11.4	(5.7)	2.8	1.4
サービス	△5.7	(△5.7)	1.3	△2.7

● 図表2-5 設備投資DI推移(17/IVは見通し)



【17年7～9月期】

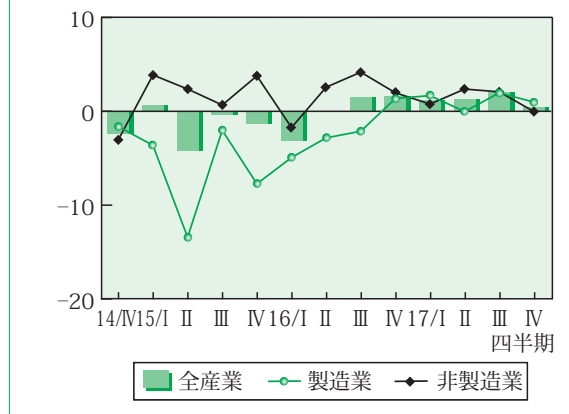
○製造業

生産販売能力向上のための生産機械の新規導入や更新がみられ、食料品およびその他(プラスチック等)が「増加」超に転じた。

○非製造業

老朽化対応などを理由とした車両運搬具入替等によりサービス業と建設業が「増加」超に転じた。

● 図表2-6 資金繰りDI推移(17/IVは見通し)



【17年7～9月期】

○製造業

輸送機器が「余裕」超に転じた。一方、木材木製品と窯業土石が「窮屈」超に転じた。

○非製造業

旅館ホテルを中心にサービス業が小幅ながら「余裕」超に転じた。

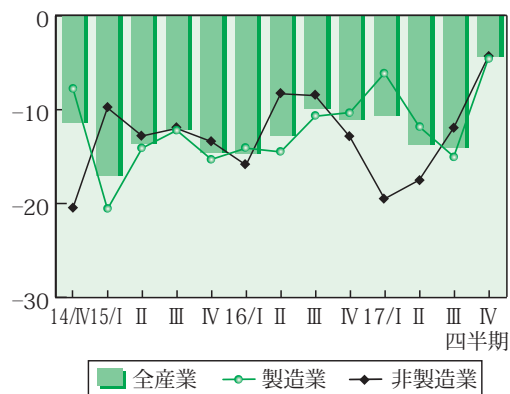
(7)在庫水準

～「適正」が8割を占める～

	17/II	17/III(7-9月)		17/IV
	実績	前回予測	実績	見通し
不足	2.4	(2.1)	2.7	3.8
適正	81.4	(87.6)	80.5	88.0
過剰	16.2	(10.3)	16.8	8.2
全産業DI	△13.8	(△8.2)	△14.1	△4.4
製造業DI	△11.8	(△7.7)	△15.0	△4.5
食料品	△12.5	(△8.3)	△17.4	△4.4
繊維	△10.0	(△10.0)	△36.4	0.0
木材木製品	△22.2	(△11.1)	△18.2	△9.1
窯業土石	△14.3	(△14.3)	△6.7	0.0
電気機器	△5.2	(△5.2)	△4.7	△9.5
輸送機器	△19.3	(△7.7)	△12.0	0.0
金属製品	△14.7	(△11.7)	△12.9	0.0
一般機械	0.0	(△6.6)	△7.7	0.0
その他	△9.3	(△2.4)	△20.0	△10.0
非製造業DI	△17.5	(△9.3)	△11.9	△4.3
卸売業	△18.6	(△8.5)	△12.1	△3.5
小売業	△15.8	(△10.5)	△11.7	△5.9
建設業	0.0	(0.0)	0.0	0.0
サービス	0.0	(0.0)	0.0	0.0

注)非製造業のうち、建設業、サービス業は対象外

● 図表2-7 在庫水準DI推移(17/IVは見通し)



【17年7～9月期】

○製造業

秋冬物衣料販売への備えと夏物衣料の販売不振などから、繊維の「過剰」超幅が拡大した。

○非製造業

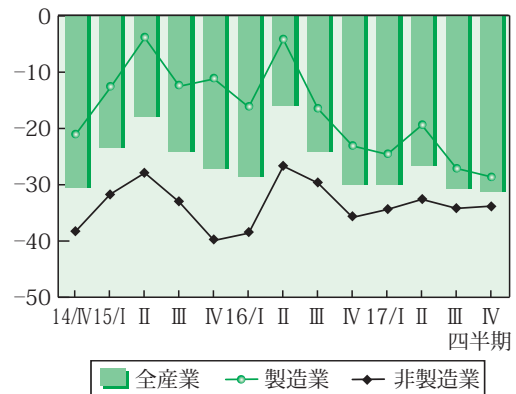
卸売業、小売業ともに「過剰」超幅を縮小した。

(8)人員

～前回予測を上回る人員不足で、「不足」超が続く～

	17/II	17/III(7-9月)		17/IV
	実績	前回予測	実績	見通し
過剰	5.1	(4.2)	4.8	3.6
適正	63.0	(63.6)	59.5	61.4
不足	31.9	(32.2)	35.7	35.0
全産業DI	△26.8	(△28.0)	△30.9	△31.4
製造業DI	△19.4	(△21.5)	△27.1	△28.6
食料品	△20.8	(△25.0)	△17.4	△34.8
繊維	△30.0	(△40.0)	△25.0	△8.4
木材木製品	△33.3	(△33.3)	△16.7	△25.0
窯業土石	△21.4	(△21.4)	△33.3	△33.3
電気機器	△15.8	(△31.6)	△14.2	△28.6
輸送機器	△15.4	(△7.7)	△24.0	△28.0
金属製品	△17.7	(△14.7)	△51.6	△42.0
一般機械	△29.4	(△35.3)	7.7	7.7
その他	△13.9	(△16.3)	△33.3	△31.4
非製造業DI	△32.6	(△32.9)	△34.2	△33.8
卸売業	△20.3	(△16.9)	△31.0	△29.3
小売業	△39.5	(△34.2)	△50.0	△41.2
建設業	△29.6	(△35.2)	△25.8	△31.4
サービス	△40.3	(△41.1)	△37.3	△36.0

● 図表2-8 人員DI推移(17/IVは見通し)



【17年7～9月期】

○製造業

金属製品で「不足」超幅がさらに拡大している。

○非製造業

卸売業や小売業で「不足」超幅がさらに拡大している。特に小売業では「過剰」とする先がなく、5割が「不足」状態にある。

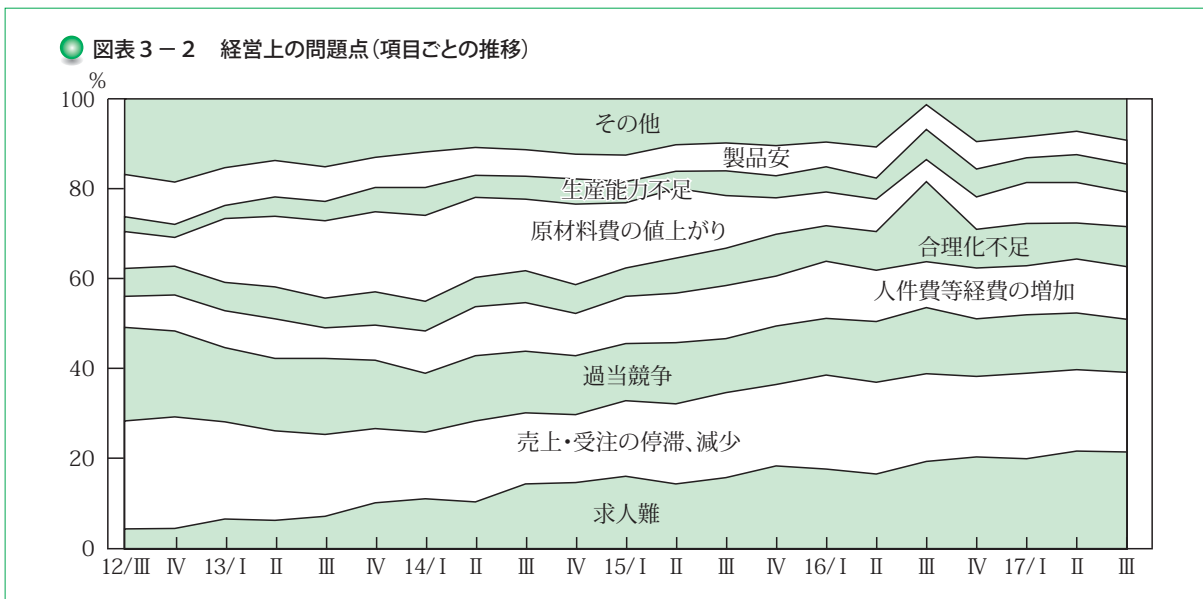
3. 経営上の問題点

～「求人難」が引き続き1位～

図表3-1 経営上の問題点

(単位：%)

項目	17年 4～6月期	17年 7～9月期	前期比増減	回答の多い業種
求人難	49.0	48.7	△0.3	サービス業、建設業、輸送機器、小売業
売上・受注の停滞、減少	40.9	40.2	△0.7	繊維、窯業土石、卸売業、小売業
過当競争	28.4	26.8	△1.6	小売業、木材木製品、卸売業、建設業
人件費等経費の増加	27.1	26.6	△0.5	電気機器、小売業、卸売業、食料品
合理化不足	18.1	20.2	2.1	輸送機器、電気機器、一般機械、金属製品
原材料費の値上がり	20.2	17.4	△2.8	金属製品、一般機械、食料品、輸送機器
生産能力不足	14.0	14.1	0.1	輸送機器、電気機器、建設業、木材木製品



注：図表3-2の分母は、本項目（問題点）についての回答数（複数回答）合計。

経営上の問題点をみると、前回同様、1位「求人難」、2位「売上・受注の停滞、減少」の順となった。以下は、「過当競争」、「人件費等経費の増加」、「合理化不足」と続いた。

回答の多い業種は、「求人難」ではサービス業、建設業、輸送機器、小売業など、「売上・受注の停滞、減少」では繊維、窯業土石などである。また、「過当競争」では、小売業、木材木製品などとなった。

項目ごとの推移を長期でみると「求人難」の割合が徐々に増えてきている。なお、「合理化不足」や「生産能力不足」も徐々に増えつつある。